

**令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
実施計画書（新規団体用） 5/19版**

活動団体の本事業での活動テーマ

『 協同による地域循環共生圏の再生 』

活動団体の活動地域：鳥取市

活動団体名 ：ワーカーズコープさんいんみらい

中間支援主体名 ：(株)市民エネルギーとっとり

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団さんいんみらい事業所
活動地域	鳥取市、八頭町、若桜町

専門性・強み

協同労働 # 就労支援 # 伴走型支援
こども食堂運営 # 人・行政・事業者をつなぐ
◎参加型の事業所運営、協同労働による事業、他人事にしない関係づくり、地域づくり
◎~~就労支援事業~~では、就労意欲の喚起・保持・カウンセリングによる支援、就労の場の創出など、伴走型支援を目指した活動をしており、就労支援に関しての知識・経験。
◎意欲喚起事業で、耕作放棄地を借りて、農作物の作付から収穫を支援対象者と一緒に行っている（鳥取市）
◎同事業で、田んぼを養殖池に整備して、ホンモロコの養殖を行い、その飼育作業を支援対象者と行っている（八頭町）

団体の概要

（ミッション） みんなで協同し、「ともに生き、ともに働く」社会をつくる『協同労働』を地域みなさんに伝え、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

（概要）

- ・被保護者就労支援事業
- ・被保護者就労準備支援事業
- ・生活困窮者就労準備支援事業
- ・生活困りごと相談窓口事業
- ・児童クラブ7館運営 ・放課後等デイサービス
- ・こども食堂支援ネットワーク事業（“えんたく”約100団体）
- ・こども食堂2ヶ所運営
- ・清掃事業 ・居住支援事業

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	株式会社市民エネルギーとっとり
活動地域	鳥取県主に東部

専門性・強み

暮らしの地産地消 # 産官民連携プロジェクト
参加型の資金調達 # 省エネルギー診断・提案
地域事業おこし # エネルギーエージェンシー・伴走支援
専門家・先行事例等紹介

団体概要

（ミッション） エネルギー、食、お金、なりわいなど、“暮らしの地産地消”を通して、分散・自治型の地域の社会インフラを整えることで、FEC（食、エネルギー、ケア）自給圏の実現をめざし、自然と共生する持続可能なふるさとを子どもたちに手わたすことを目的としています。

（概要）

- ・参加型発電事業（市民・地域共同発電所）により生まれる価値の地域還元・循環創出
- ・地域の特産品を活用し、生産者、地場産業、教育、福祉分野等との連携による循環型社会形成に貢献
- ・停電時に発電する電気を発電所で活用しレジリエンス向上

活動団体と地域の紹介

①



②



意欲喚起事業の
様子①②

③



④



ホンモロコの養
殖の様子③④

⑤



⑥



こども食堂の様
子⑤⑥

活動団体と地域の紹介

鳥取県

1 鳥取事業所

住所：鳥取県鳥取市末広温泉町 203 レインボーセンター6F
TEL：0857-29-2469 FAX：0857-30-7472
事業：病院連携、デイケア送迎、駐車場管理ほか

2 さんいんみらい事業所

住所：鳥取県鳥取市吉方温泉1丁目 252-1
TEL：0857-30-7471 FAX：0857-30-7472
事業：①鳥取市被保護者就労準備支援事業
②とっとり子どもの居場所ネットワーク“えんたく”（子ども食堂支援事業）
③鳥取市子どもの居場所づくり事業
④八頭町子どもの居場所づくり事業
⑤鳥取市放課後児童健全育成事業（蘇島小学校 はとっこ1組）
⑥鳥取市放課後児童健全育成事業（蘇島小学校 はとっこ2組）
⑦鳥取市放課後児童健全育成事業（久松小学校 みらい）
⑧鳥取市放課後児童健全育成事業（明徳小学校 わかあゆ）
⑨鳥取市放課後児童健全育成事業（歌岐小学校 さんき）
⑩鳥取市放課後児童健全育成事業（富桑小学校 くわのみ1組）
⑪鳥取市放課後児童健全育成事業（富桑小学校 くわのみ2組）
⑫放課後等ディサービスみらい鳥取
TEL：0857-30-6172 FAX：0857-30-6173
⑬鳥取県居住支援事業
⑭鳥取県孤独孤立に関する相談窓口運営業務
⑮鳥取県生活困窮者食料等支援体制強化事業
⑯本部1可被保護者及び生活困窮者就労準備支援事業

島根県

1 AtoZ さんいん事業所

住所：島根県出雲市今市町北本町 4丁目 4-11
TEL：0853-31-6663 FAX：0853-31-6767
事業：①しまね東部若者サポートステーション
②しまね西部若者サポートステーション
③しまね西部若者サポートステーション
④とっとり若者サポートステーション
⑤よなご若者サポートステーション
⑥就労継続支援B型事業所 緑☆Joy

2 島根みらい事業所

住所：島根県松江市東朝日町 63
TEL：0852-67-6170 FAX：0852-67-6173
事業：①さんいん若者サポートネットワーク事業
②江津市生活困窮者自立支援事業実施業務
③労働者協同組合設立支援事業
④放課後等ディサービスみらい雲南

3 さんせるとっとり事業所

★倉吉事務所
住所：鳥取県倉吉市見日町 600
TEL：0858-24-6551 FAX：0858-24-6556
事業：①倉吉市被保護者及び生活困窮者就労準備支援事業
②低所得者等に係る中間的就労支援推進事業
③居住支援法人活動支援事業
④放課後児童クラブ（西郷小学校 西郷みらい）
⑤放課後等ディサービスみらい倉吉 TEL：0858-24-6663 FAX：0858-24-6556
⑥米子市生活困窮者就労準備支援事業
⑦放課後等ディサービスみらい琴浦

山陰エリア

（鳥取県/島根県）

★松江事務所

住所：島根県松江市東朝日町 63
TEL：0852-67-6170
FAX：0852-67-6173

山陰山陽

事業本部

山陽コ

（岡山県/広島県）

★岡山事務所
住所：岡山県岡
サンホー
TEL：086-235-1

★広島事務所
住所：広島県広
第7ウエ
TEL：082-208-1

岡山県

1 みずたま事業所

住所：岡山県倉敷市水島西栄町
TEL：086-454-5661 FAX：086
事業：①水島協同病院清掃、配
②水島協同病院清掃、送
③倉敷市科診療所7カ所
④岡山市内4カ所の清掃

2 倉敷事業所

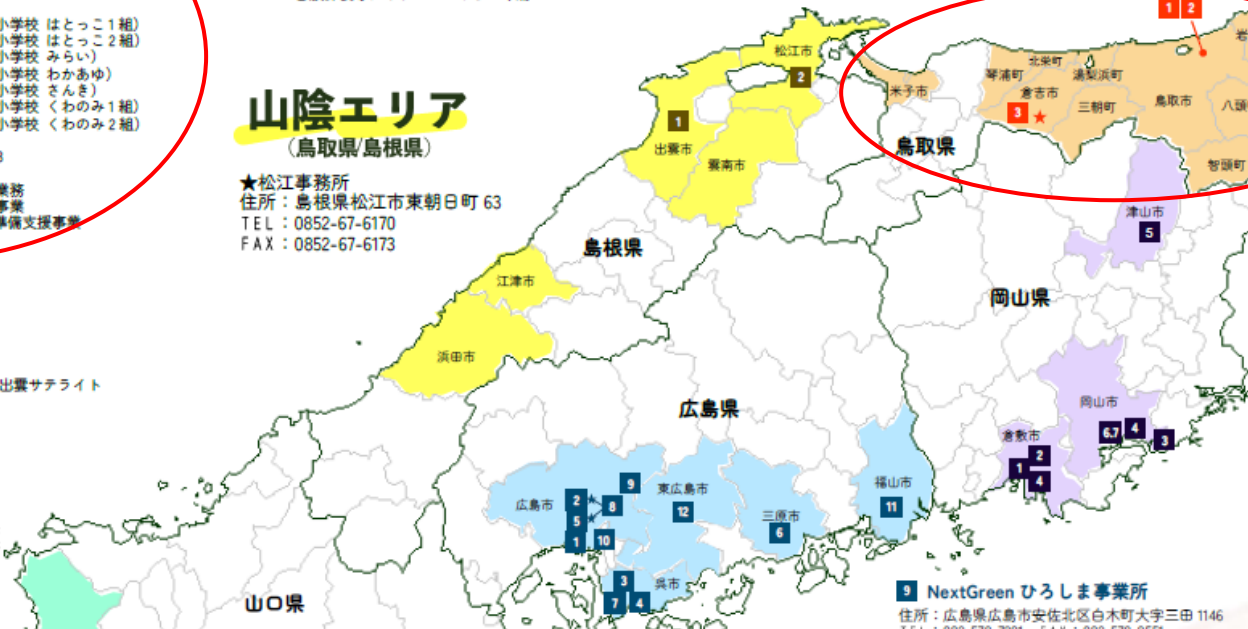
住所：岡山県倉敷市阿知1丁目
TEL：086-486-5162 FAX：086
事業：①くらしき地域若者サポ
②倉敷市学習支援事業
③岡山県被保護者等就労

3 岡山子どもみらい事業

住所：岡山県岡山市東区広谷41
TEL：086-230-3536 FAX：086
事業：企業主導型保育所 元氣-

9 NextGreen ひろしま事業所

住所：広島県広島市安佐北区白木町大字三田 1146
TEL：082-730-7901 FAX：082-730-7901



活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

魅力あるふるさとにUターンする若者や、その魅力に気づいた移住定住者を多く引き込み、人口減少・流出がない地域。地域に若者が定着することで、第1次産業の担い手の解消、それに伴って、地域産業や生産活動が活発になる地域。

ボランティア活動に積極的に関わる県民性を活かして、住民主体の地域づくりを積極的に行ってもらい、社会・環境・経済の同時解決が進み、地域活性化につながっている地域。

ー> 人も自然も 経済も調和し循環する“飛ぶ鳥”を落とす勢いのあるまち。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

プラットフォームでは、地域内でのネットワークのハブ機能を備え、地域を将来につなぎ、誇れる地域であり続けるために必要なこと、自身が挑戦したいことを気軽に言い合い、対話し、応援し合う場（安心できる居場所と共有の拠点）をつくる。また、地域づくりの主体を生み協働することで、地域の資源循環づくりや、協同による仕事づくり（事業創出）の支援機能を果たす体制を整える。

一人ひとりがこうありたいと願う「生き方」「働き方」「暮らし方」が当たり前として受け入れられる社会が広がることに、大きな希望と可能性を見出せる仕組みをつくる。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

鳥取の地域資源を生かしたふるさとの魅力創出と生き・働き・暮らしやすい地域づくりに向けて、以下の事業に取り組む

- ①遊休農地や耕作放棄地を活用したコミュニティ・ガーデンづくりによる地域食堂や地元飲食店・小売店等へ地元食材の提供・居場所づくり・新たな商品開発
- ②地域食堂や地元飲食店の廃棄部分を活用したたい肥やBDFなど新たな資源循環と協同による仕事づくり
- ③脱炭素（省・創エネ）×福祉：参加型の断熱改修と省エネ診断を通じた暮らしの質向上と新たな仕事づくり

■ 地域の現状と課題

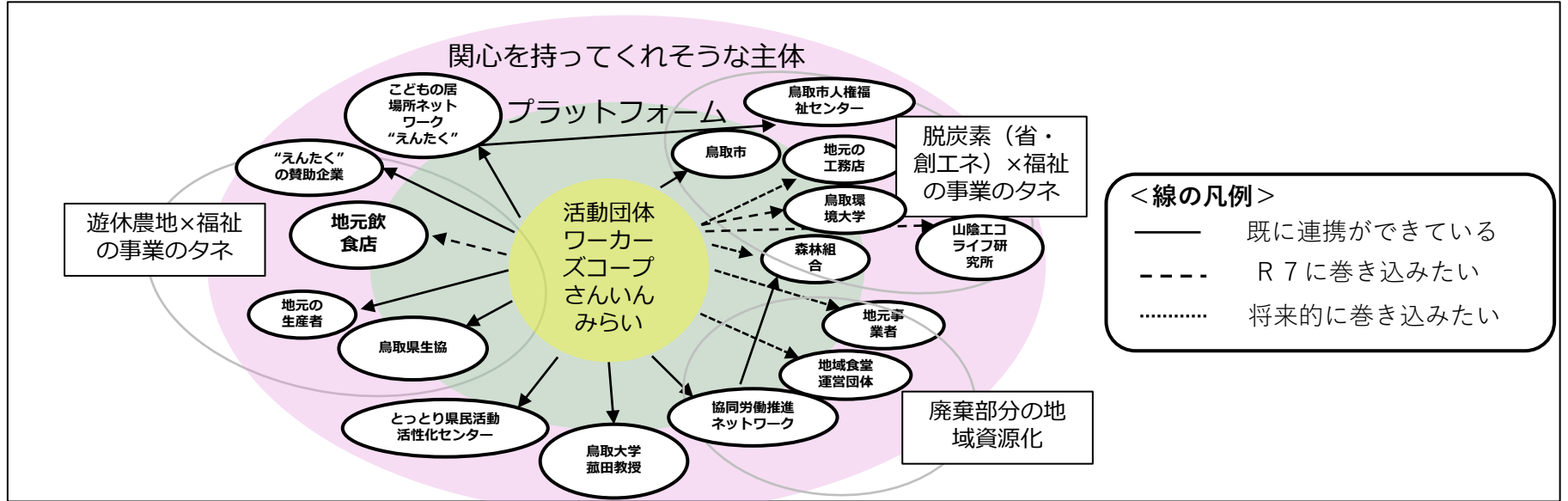
人口減少・流出（2005年20万人⇒2020年18.8万人）、小学校の統廃合が進む中、地域資源の有効活用ができておらず、生産者である農業の担い手減少（10年間で35%減少）・荒廃地の増加（10年間で経営耕地面積25%減少）、地域内で経済が回っておらず、地域外に流出する構造になっている

農業など地域産業や生産活動が衰退し、雇用が減り、地域コミュニティ（地域社会）を支える住民自治活動ができなくなるなど、日常生活を地域で支えることが困難になっている地域がある。

ボランティア活動（まちづくりのための活動や自然・環境を守るための活動等）に住民が関わった割合が全国一であるなど、住民が主体となって、企業やNPO、住民団体や地域活動を行う者・団体等と協働・連携して、自らの手で地域づくり等を進めていく素地があります。

“地域プラットフォーム”のイメージ 及び実現したいローカルSDGs事業

■ 地域に必要なプラットフォームのイメージ



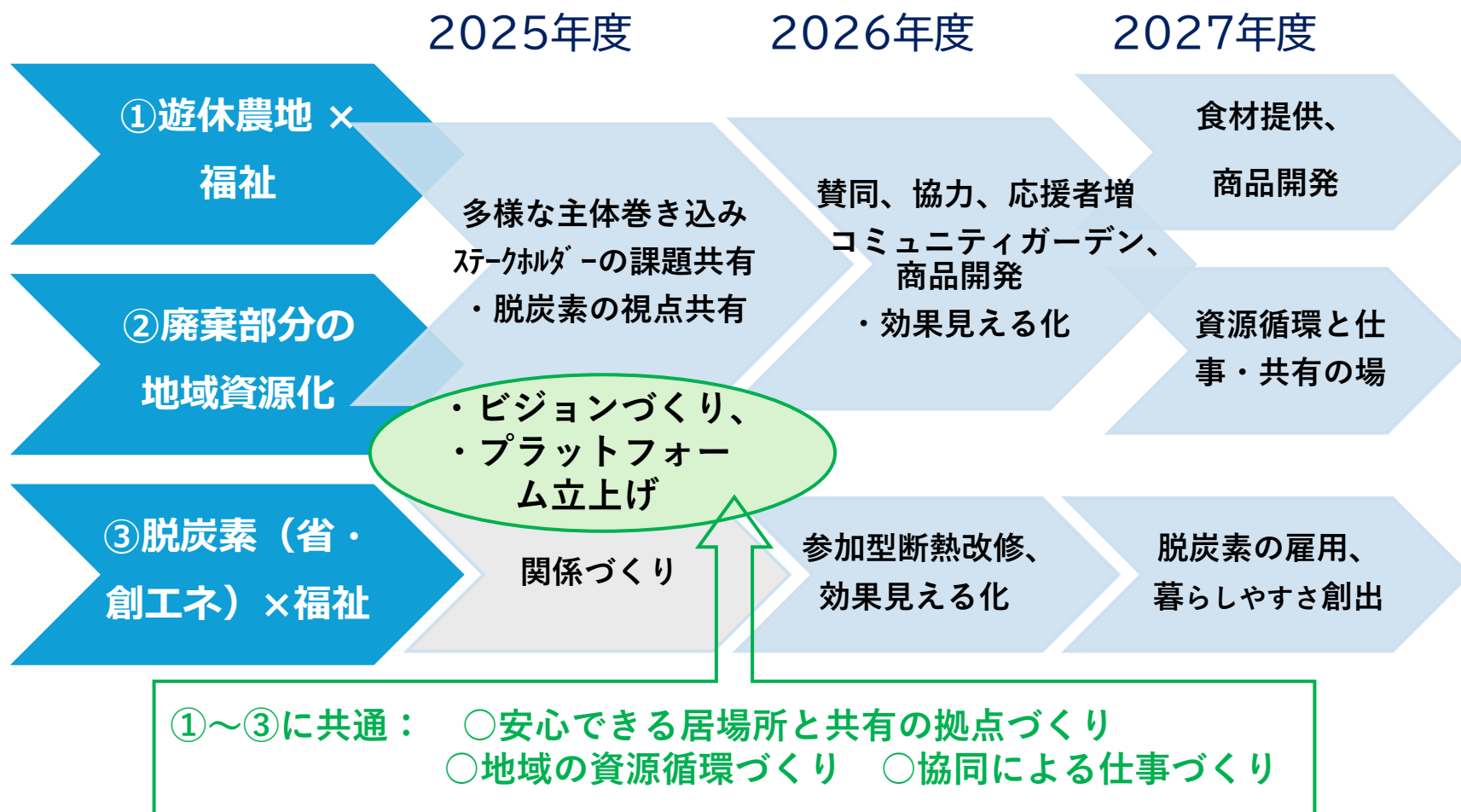
地方公共団体との今後の関わり

社会福祉・協同労働分野で築かれている市・県との関係性を活かし、持続可能な地域づくりに向けてさらに課題を深掘りし、横断的な課題解決につながるよう、他分野の担当の方々とも定期的に情報交換できる関係性を築いていくことを想定しています。

■ 実現したいローカルSDGs事業

	検討しているローカルSDGs事業（最大3つまで）	地域の環境・経済・社会に起こしたい変化 ※地域課題解決とのつながりを考慮して記載
①	○ 遊休農地×福祉： 遊休農地や耕作放棄地を活用した、コミュニティ・ガーデンづくりによる地域づくり人材の発掘、地域食堂や地元飲食店・小売店等への地元食材の調達提供・居場所づくり・新たな商品開発	○環境： 遊休農地を有効活用、輸送環境負荷の軽減、脱炭素 ○経済： 食の地域内生産と消費増による地域内循環創出、ホンモノ・大豆商品等開発 ○社会： 安心できる居場所づくり、雇用増加、多世代交流
②	○ 廃棄部分の地域資源化： 地域食堂や地元飲食店等の食品等廃棄部分を活用したたい肥やBDFなど新たな資源循環と仕事づくり	○環境： 資源循環、農と食育、堆肥づくり等による廃棄物削減 ○経済： 地域外への依存軽減・資源流出の抑制、脱炭素型農業 ○社会： 雇用増、循環型ブランディングで地域・事業・仕事PR
③	○ 脱炭素（省・創エネ）×福祉： 参加型の断熱改修と省エネ診断、創エネを通したくらしの質向上と新たな仕事づくり	○環境： CO2の排出量削減 ○経済： 雇用創出、地元工務店のノウハウ向上 ○社会： 暮らしやすさ、健康寿命の向上、格差社会の是正

(参考)ローカルSDGs事業づくりイメージ



- ・ 関係者と脱炭素の視点を共有し、効果が見える化しながら(＝ローカルSDGs事業としての共感を広げながら)、担い手探し、事業づくりを進めていく。
- ・ ①、②のステークホルダーから、③の協力者、賛同者を広げていく

3 力年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

- ・新事業の立ち上げ。実施主体は、新しく労働者協同組合などが設立されている。
- ・新しい仕事が生まれて、地域資源の循環に基づく産業が活発化、遊休農地の活用が進んでいる。
- ・プラットフォームが活性化している。

■ 2026年度末の状態目標

- ・地域を将来につなぎ誇れる地域であり続けるために必要なこと、自身が挑戦したいことを気軽に言い合い、対話し、応援し合う場をつくるプラットフォームが構築されている。
- ・大豆とホンモロコの商品開発が進んでいる。
- ・レシピ開発のイベント（コンテスト等）を開催し、賛同者、協力者、応援者などを増やしている。

■ 2025年度末の状態目標

- ・コアメンバーが形成されている（イメージ：平尾豆腐店、川のほとり、ホンモロコ共和国、鳥取大学教授、商工会青年部、鳥取市、八頭町、鳥取県、鳥取県生活協同組合など）
- ・コアメンバーと共にビジョンづくりができています。
- ・色々な主体を巻き込み（隼lab.など）、地域の課題や目指すビジョンについて話し始めている。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

- ・活動団体の現状と課題や活動団体が地域で果たしたい中長期的な役割・ニーズを把握し、地域の現状と課題とを絡めて、俯瞰的な立場で、環境・経済・社会面のバランスのとれた地域の持続可能性を伸ばす取り組みを加速するための具体的な支援（特に課題把握、人材を発掘、対話創出、変革促進、資源連結、問題解決提示・事業化支援）やコーディネートができるようになる。
- ・社会福祉や協同労働分野の仕事づくりについて学び、理解を深め、地域資源循環型の事業や拠点・仕事づくりを強みにしていく。
- ・それによって、地域づくりの頼られる相談役や活動おこしや事業化の後押し役になる。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

- FEC自給圏と自然と共生する持続可能なふるさとを実現するため、
 - ・食べるもの・エネルギー・ケア、なりわいやお金の地産地消＝“くらしの地産地消”を実践する担い手が増え、ローカルSDGsに関心を持つ主体同士の交流や連携の輪が広がり、みんなで協同し頼りあい、誰もが安心して暮らし続けられる地域共生圏づくりを加速する。
 - ・自立・分散・循環型の地域拠点が増え、他地域の中間支援主体と連携し、さらに地域拠点を増やすことに貢献していく。
- 地域拠点では、例えば、まちとむらのくらしがつながって、協働や連携の関係が深まり、農家など一次産業の担い手や地域の企業が元気になり、共感の輪が広がっている。
- ・気候変動に対する脆弱性を強化し、セキュリティネットの担い手（団体や人、ネットワーク）や拠点、地区を増やし、より広い地域が中長期的に持続可能になるよう貢献していく。
- ・社会福祉や協同労働分野の地域共生・資源循環型の仕事・拠点づくりの支援を通して、公正な移行の受け皿を地域に増やしていく。

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

- ・地域の関係者を巻き込み、短期的・中長期的な視点から地域資源の現状や地域課題を出し合い、対話を通して学びあい共有し、深掘って整理し、地域ビジョンがつくられ、地域プラットフォームの基礎ができている。
- ・ローカルSDGs事業創出に向けて、地域内での意識の醸成が図られ、多様な主体間の連携意欲が高まっている状態、脱炭素×社会・福祉分野の関係づくりが進んでいる状態を目指す。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	活動団体は、社会福祉関係や協同労働分野のつながりや交流ネットワークを形成している。既存のつながりに加え、資源循環や価値創造につながる担い手や事業開拓に向けて、地域の現状と課題を共有・深掘りし、より多様な世代や、環境や事業に関する地域の主体への声掛けや巻き込みが必要	地域の多様な関係者とコミュニケーションをとり、抱える課題を互いに出し合い共に向き合い、信頼関係を築き、横断的な課題に共に取り組む地域主体の関係性やポテンシャルが見える化し、どういう連携・声掛けができるかを主体的に考えてもらえるようにする。
②	地域ビジョンづくりに向けて、活動団体が現時点で描いているビジョンの解像度が低いため、地域の多様な関係者との対話を重ねて具体化し、関係者が地域課題の解決をじぶんごと化して、共感できるビジョンとして作り上げる必要がある。	関係者と、地域の現状と短期的・中長期的な課題を俯瞰的に共有する機会や対話の場を積極的につくることを勧める。 また、目指すビジョンについて、なぜめざしたいか、そのためにはなにがあるかといか、どんな連携をできるとよいかなどを問いかけ、ビジョンを主体的に模索し、言語化して共有・発信できるようにする。⇒ワークショップ、ビジョンづくり
③	コアメンバーの形成や仲間作り、事業の実施主体や事業を育て応援してくれる主体を探すためにも、プラットフォームづくりやビジョンづくり、環境・社会・経済の同時課題解決につながるローカルSDGs事業による地域への効果が見える化する必要がある。	地域課題とありたい地域の姿を踏まえて、関係者と地域資源を深掘りし、地域全体としてのメリット感や課題解決に向けたワクワク感を共有し、先行事例の共有なども通して、何のためのプラットフォームづくり、ビジョンづくり、ローカルSDGs事業かを問いかけ、意見交換する機会を持つことを勧める。

活動・支援スケジュール

■スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		コアメンバー準備会	キックオフミーティング	コアメンバー会議	キックオフイベント	コアメンバー会議		中間共有会	コアメンバー会議		コアメンバー会議	
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】		地域関係団体ききとり	地域関係団体ききとり		WS①		WS②		WS③			
								商品開発・視察				
中間支援主体の支援・取組計画	地域関係団体ききとり				WS①		WS②		WS③			

マンダラ・体制図、事業の種、活動、支援レポート。振り返りシート提出

備考（補足説明など必要な場合は記載）

上記のほか、定期会合（活動団体、中間支援主体、状況によりコアメンバーが参加）を毎月、コアメンバー会議を必要に応じて回数を増やし開催